

2010 年 3 月期 第 2 四半期決算 FAQ

Q1: 第2四半期(7-9月)の業績は期初想定と比べ営業損益は大きく悪化したが、要因は何か？

A1: 第2四半期の半導体売上高につきましては、前四半期(4-6月)比で16%増収の1,138億円となり、期初想定(前四半期比9%強増収)を上回る結果となりました。これは、マイコンやディスクリートなどの汎用製品が増収となったほか、自動車向け半導体が想定以上に好調だったことによるものです。

営業損益に関しましては、前四半期から改善はしたものの、155億円の損失となり、期初想定より大きく悪化いたしました。これは主に、最先端プロセスラインである300ミリラインの稼働低下、当初想定より生産が増えなかったことに加え、研究開発費が想定より多く発生したことによるものです。

Q2: 今期の業績修正の内容は何か？(半導体売上高△150億円、営業損益△465億円、税引前損益、当期純損益ともに△460億円の下方修正)

A2: 当社は、2010年3月期通期の業績見通しを下方修正いたしました。半導体売上高については、マイコンやディスクリートなどは堅調な状況であるものの、SoC(システム・オン・チップ)製品の一部において売上が大幅に減少する見込みであることから、期初予想と比べ150億円の減少となる見込みとなっております。連結営業損益については、半導体売上高の減少に加えて、300ミリラインにおける稼働の低迷が当面続く見込みであることなどにより、前回予想と比べ465億円悪化する見込みとなっております。

Q3: 第3四半期(10-12月)の業績見通しは？前期の悪化要因は解消されるのか？

A3: 第3四半期の半導体売上高につきましては、第2四半期比で数%の増収を見込んでおります。引き続きマイコン、ディスクリートなどの汎用製品や自動車向け半導体も増収を見込んでいる一方、民生機器向けLSIが減少する見込みです。

営業損益に関しましては、引き続き営業赤字を見込んでいるものの、40ナノメートルプロセス製品の量産開始や、受注が好調なマイコン、ディスクリートの増産により工場稼働が改善することから、利益の改善が見込まれます。また、下期にかけて上期比約80億円の固定費削減を実行するため、第3四半期においても固定費削減による効果を見込んでおります。

Q4: ルネサス テクノロジ (以下、ルネサス)との統合における進捗状況は？

A4: 当社は、9月16日に発表いたしましたとおり、ルネサス テクノロジと統合基本契約を締結いたしました。NECエレクトロニクスとルネサスは、来年4月1日の合併に向けて、着実に準備を進めております。

新会社の概要は、以下のプレスリリースを参照ください。

「NECエレクトロニクス株式会社と株式会社ルネサス テクノロジの統合基本契約締結について」

<http://www.necel.com/news/ja/archive/0909/1601.html>

本統合に伴う増資に関し、新会社は日本電気、日立製作所、三菱電機を割当先とする第三者割当増資を行ないます。これにより、新会社は1,346億円の資金調達を行ないます。また、ルネサステクノロジーは、統合に先立ち、日立製作所、三菱電機を割当先として、717億円の株主割当増資を実施いたします。

第三者割当増資に関しては、プレスリリースを参照ください。

「第三者割当により発行される株式の募集に関するお知らせ」（9月16日）

<http://www.necel.com/news/ja/archive/0909/1602.html>

「第三者割当により発行される株式数等の変更に関するお知らせ」（11月9日）

<http://www.necel.com/news/ja/archive/0911/0902.html>

「NECエレクトロニクス株式会社と株式会社ルネサス テクノロジーの統合に伴い実施される資本増強の変更に関するお知らせ」（11月9日）

<http://www.necel.com/news/ja/archive/0911/0901.html>

以上